

図書館かがわ

香川県立図書館報 第137号

発行日 2022.10.1

ISSN 1344-5464



Library Kagawa



講座



高校生によるおはなし会



読み聞かせ練習

「集まれ高校生！読み聞かせにチャレンジ！！」を実施しました。

令和4年8月3日(水)、将来司書や教員などを目指す高校生を対象に、読み聞かせ講座を開催し、4日(木)の「高校生によるおはなし会」で受講生13名が、絵本の読み聞かせを行いました。

この事業は、高校生に図書館で絵本の読み聞かせを体験してもらうことで、将来の職業や小さな子どもとの関わり方について考える機会を提供するために実施しています。

高校生からは「将来保育士になりたいので、この経験を活かしたい」、「人前で話すことの自信につながった」、「聞いてもらえるように工夫するのが難しかった」、「小さな子どもがまっすぐこっちを見ながら聞いてくれるのがうれしかった」などの感想がありました。

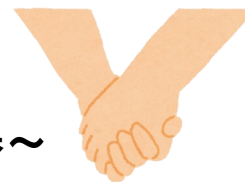
初めて会った高校生同士が協力して、子どもたちのことを考えながら一生懸命つくったおはなし会には、たくさんの子どもたちが集まり、楽しんでくれました。

今回の経験は、高校生の皆さんがこれから先何かにチャレンジするときに背中を後押し、自信をくれるような、そんな経験になったのではないかと思います。

レファレンス日誌から 第16回

きずな

～「ナギ」の苗木が結んだ香川県と沖縄県の絆の巻～



香川県と沖縄県の結びつきを知る一つの調査依頼がありました。

本土復帰後の沖縄に、善通寺市の個人の方が「ナギ」の苗木を贈った事実を報じた新聞記事を探してほしいというものです。依頼者の方によると、苗木が贈られたのは、沖縄の本土復帰後であることは間違いないが、具体的な時期はわからないとのことでした。

そこで、最初に、「ナギ」「苗木」「沖縄」といった調査の鍵となる言葉で「レファレンスデータベース」を検索しましたが、当館の調査記録は見つかりませんでした。過去に同様の調査は、なかったようです。

次に、新聞記事データベース「朝日新聞クロスサーチ」で検索したところ、沖縄の本土復帰翌年の昭和48年(1973年)1月30日付けの夕刊に、「沖縄へ苗木贈る」と題する記事が見つかり、読み進めると、記事が依頼内容に沿うものであるとわかってきました。

この記事には、善通寺市のある植木職人の方が、沖縄の本土復帰に際して、多くの人に緑をながめる楽しみを届けたいと考え、沖縄に「ナギ」の苗木を贈ることを思い立ったこと、丹精込めた苗木の贈り先は沖縄県内443の小・中・高校全校におよぶことが記されていました。加えて、苗木を善通寺から沖縄まで輸送する費用確保のため、病を押して奔走する様子も記されており、植木職人の方の強い思いが伝わってきます。



「ナギ」はマキ科の常緑高木で、葉が切れにくいことから「絆を結ぶ木」ともいわれるそうです。沖縄の本土復帰から50年目の年に、1,000km以上離れる香川県と沖縄県との絆を感じるレファレンスとなりました。

◆◆「第1回健やか生活応援講座」を開催しました◆◆

令和4年9月9日(金)「転倒予防に有効な運動と杖の正しい使い方」をテーマに、四国医療専門学校から逢坂幸佳さんを講師にお迎えし、お話をいただきました。

高齢になると視覚能力やバランス機能の低下により転倒しやすく

なること、また転倒防止を予防するための筋力

強化のトレーニングの仕方、体の左右を同時に別々の動きをする運動、杖の握り方など実技を交えた内容で、参加者の方からは「杖の使い方、足の運動など分かりやすく理解できた」との感想がありました。



この本オススメです！

～日本茶の本～



朝晩肌寒く感じる季節になり、温かい日本茶が美味しく感じられるようになったという方も多いのではないのでしょうか。最近では、日本茶の殺菌効果以外にも様々な効能が知られるようになりました。例えば、日本茶に含まれるカテキン、ビタミンA, C, Eなどは、アンチエイジング、ダイエット、がん予防に効果的であるなどです。

日本茶の喫茶の歴史は古く、平安時代(814年頃)に嵯峨天皇が茶を喫し、漢詩の宴を催していたという記録が残っているそうです。その後、鎌倉時代に茶を飲み、産地を当てる「闘茶」という遊びの流行から武家社会で広まり、さらに室町時代頃には、お茶の生産量が増えるとともに、庶民へも広がっていったようです。

今回は、古くから日本人の生活の中で親しまれている日本茶についての本を紹介します。

*参考文献:茶の事典(朝倉書店)



『中世の喫茶文化 儀礼の茶から「茶の湯」へ』

橋本 素子／著 (吉川弘文館) 2018.2

(請求記号:38380/H40/2)

平安・鎌倉期に中国から渡来したお茶が、寺院や武家から庶民に広がっていく過程を、生産・流通・消費についてを中心に、茶屋の役割にも触れながら、分かりやすく説明しています。



『新版日本茶の図鑑』

公益法人日本茶業中央会, NPO法人日本茶インストラクター協会／監修
(マイナビ出版) 2017.7 (請求記号:6198/N5/1-2)

茶産地ごとに特色のある日本茶を選び、それぞれの日本茶の葉と淹れたときの写真で、味・香りをデータで紹介しています。

お茶の選び方、淹れ方のポイントやお茶の歴史についても掲載されているので、お茶についての基礎知識も学べます。



『日本茶のさわやかスイーツ』

本間 節子／著 (世界文化社) 2017.9

(請求記号:5966/H14/4)

煎茶のレアチーズケーキ、ほうじ茶のスイートポテト、抹茶のガトーショコラなど、様々な日本茶を使った50のお菓子のレシピを紹介しています。

茶葉を煮出したり、砕いてお菓子に入れたりして、乳製品や季節のフルーツと合わせると、日本茶の新しい魅力が味わえます。

●令和3年度 香川県立図書館の図書館評価を実施しました●

香川県立図書館では、運営の改善と図書館サービスの向上を図るため、図書館運営に関する評価の指標及び目標を設定し、運営状況について評価を行う「図書館評価」を実施しました。

評価指標の数値目標の達成状況は、12項目のうち評価A（数値目標の達成率100%）が10項目、評価B（数値目標の達成率80%以上100%未満）が2項目となりました。

詳細は、県立図書館ホームページに掲載しています。

重点目標	評価指標	数値目標	実績	達成率	評価
1. 図書館資料の整備充実	① 蔵書冊数(冊)	1,097,000冊	1,099,069冊	100.2%	A
	② 郷土資料受入冊数	2,300冊	2,362冊	102.7%	A
2. 図書館サービスの充実、強化	③ 入館者数	380,000人	409,783人	107.8%	A
	④ 新規登録者数	3,000人	3,334人	111.1%	A
	⑤ 個人貸出冊数	825,000冊	857,678冊	104.0%	A
	⑥ レファレンス件数 (クイックレファレンスを除く)	1,200件	1,470件	122.5%	A
	⑦ 協力貸出冊数	6,500冊	6,672冊	102.6%	A
	⑧ 児童団体貸出・学校支援 文庫貸出冊数	8,000冊 団体2,500冊 学校5,500冊	8,958冊 団体2,818冊 学校6,140冊	112.0%	A
	⑨ 来館者満足度	90%以上	88%	97.8%	B
3. 読書普及活動の充実	⑩ ホームページアクセス数 (図書館トップページ)	360,000件	352,351件	97.9%	B
	⑪ 展示等の実施回数	60回以上	70回	116.7%	A
4. 文化活動の推進	⑫ イベント、講座、研修会等の開催回数	20回以上 (うち子ども向け7回以上)	23回 (うち子ども向け8回)	115.0% (114.3%)	A (A)

評価A：数値目標を達成した（達成率100%以上）

評価B：数値目標を概ね達成した（達成率80%以上100%未満）

評価C：数値目標を下回った（達成率80%未満）



編集・発行 香川県立図書館

〒761-0393 高松市林町2217-19(香川インテリジェントパーク内)

TEL 087-868-0567 FAX 087-868-0607

<https://www.library.pref.kagawa.lg.jp/>